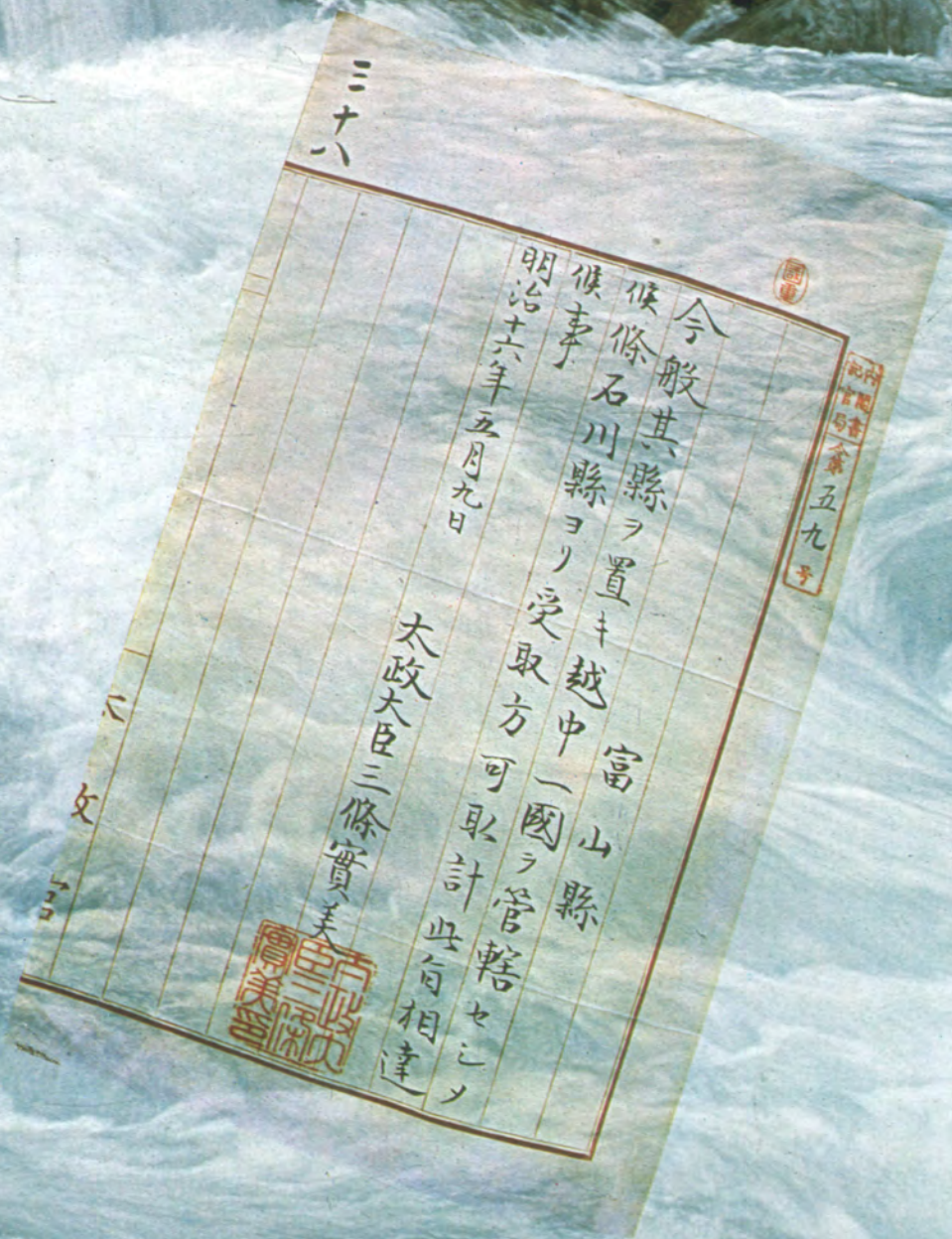


みんなの県政

100号集
特集

1977/5 富山



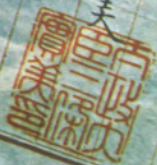
三十八



知事
印
五九号

今般其縣ヲ置キ越中一國ヲ管轄セシメ
候條石川縣ヨリ受取方可取計此旨相達
候事
明治十六年五月九日

太政大臣三條實美



富山県設置を決めた太政官布告による達
右上は初代県令(知事)国重正文の印

ふるさとの歴史

富山県ミニガイド



婦負川の早き瀬ごにかがりさし
八十伴の男は鶴川立ちけり

この歌は、越国の国守として赴任した大伴家持が詠んだ歌ですが、婦負川は今の神通川のこと、その頃は鶴飼ができる川であったことがわかります。

こうしたふるさと富山の歴史をこの号でふりかえってみました。

どんな時でも人間のなさねばならないことは、「たとえ世界の終末が明白であっても、自分はリングゴの樹を植える」ことだ。

ゲオルギー（ルーマニア）

社会環境の著しい変化の中で生きる人々のお互いのつながりを保ち、求めに応じることのむずかしさを痛感します。

私たちの祖先が残してくれたこの恵まれた郷土と遺産を見直し、これを活かすことを県民一人ひとりが考えて、自己の進む道を人々のかかわりの中から見出す。そこに住みよい県土を築くことの使命があるのではないのでしょうか。

郷土思考

富山県の自然と、その自然が生み出す社会的制約とが、端的かつ深刻に表現されており、明治の経済界に生きたひとりの県人が、富山県という地域をどう見ていたかを知ることができます。自然は、人間の力でほとんど変えることのできない一種の枠として、人間社会の営みをいろいろと左右します。けれども、

その自然をどう見るか、どう利用するかは、それと取組む人々や時代によって大きく違います。地図を見てもわかるように、富山県は日本の中央部に位置し、特急列車で富山から東京へ六時間、大阪へ四時間で行けます。また、小さくまとまったこの県では、県内のあらゆる所が、県庁のある富山市との日帰り圏に含まれています。

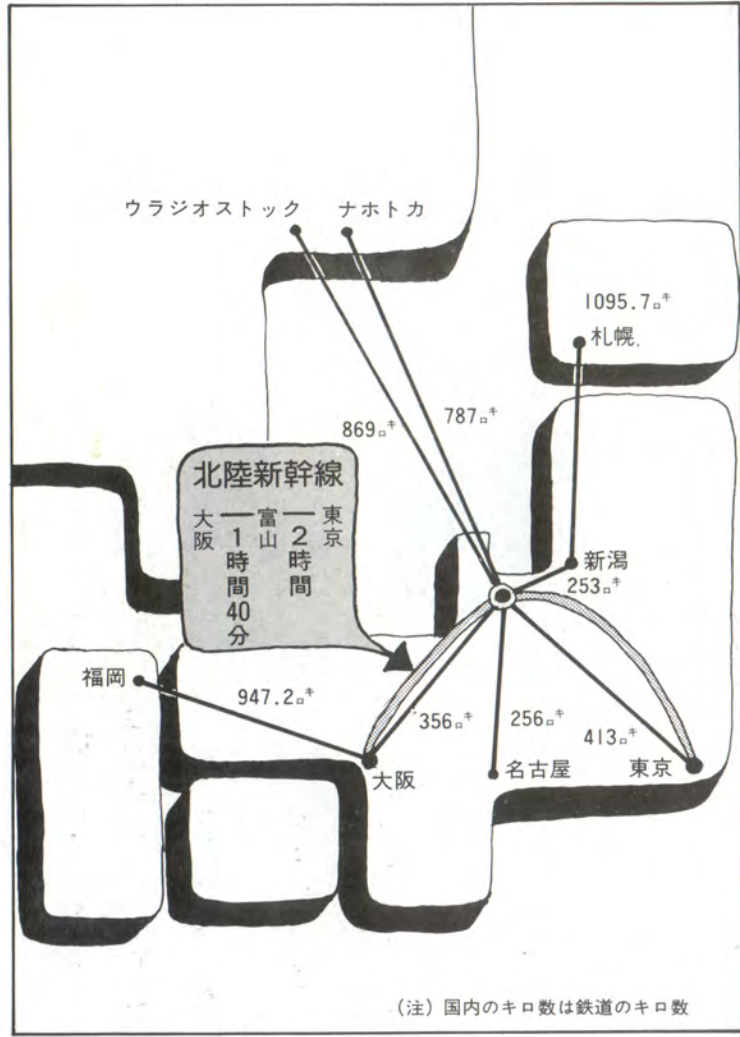
富山県知事 中田 幸吉

明日への前進のために。



また富山県は全国に稀なほど河川の多い県で、長い間、洪水に悩まされてきました。また現在でも豪雪に苦しんでいます。けれどもこの雪と川が豊富な灌漑用水と工業用水を供給し、水力発電を可能にし、農工一体という特色のある富山県を生み出したことは事実です。こうした

越中は東を越後と信濃に、南を飛騨に、そして西を加賀と能登に接しているが、この三方はすべて山地である。北の一面は海を外に門を開いているけれども、毎年十月中旬から翌年三月中旬まで船の往来が絶えてしまう。越中の海陸交通は非常に不便で、当国唯一の産物、秋穫米も春まで消費地へ輸送できない。その間、収入はなく、しかも値下りへの対策もとれず、越中の農民は非常に困っている。



これは、伏木の回漕業者藤井能三が、明治初期に書いた論文冒頭の意識です。この文には、

郷土思考 中田幸吉	表 2	県民性	13
伸びゆく富山県	1	国自慢・味自慢	14~15
原始-近世	2	郷土に輝く人びと	16
近代	3~4	県政親子バス教室が発車	17
現代	5~6	県政バス教室(7・8月分)募集	17
私の提言 密田博幸	7	児童福祉週刊	17
暴河百本	8~9	トビックス 3月16~4月15日	18~19
豊かな水資源	10~11	野鳥と銅鳥	20
工業県-富山	12	国土利用計画-富山県計画	20
農業県-富山	12	県有美術品(彫刻・工芸)紹介シリーズ②	表 3
体質と気質	13	越の国国主 万葉の歌人 大伴家持	表 4
方言	13	ご利用ください みなさんの広報課です	表 4

原始～近世

原始時代

私たちの郷土に、いつから人が住みだしたのか、まだわかっていません。だが土器の使用を知らなかった時代の石器が、上市町眼目新をはじめ、百か所以上の場所で発見されています。一万年前から、人々は縄文



バスケット型土器
水見市朝日貝塚から出土したもので縄文中期の文化を代表するすばらしいものです

土器を使いだしました。縄文時代の遺跡は、富山平野周辺の山地縁辺に広く分布しており、氷見市朝日貝塚・大境洞窟や朝日町不動堂など五百か所以上も見つかっています。稲の栽培や金属器の使用が始まった弥生時代の遺跡は、高岡市石塚・中曽根、小杉町囲山をはじめ、主として常願寺川以西の平野内微高地を中心に、低湿地帯に分布しています。それらは、ほぼ二千年前のものです。

古代

四七世紀頃に築かれた豪族の墓を古墳といいますが、郷土の古墳は、二上山を中心に小矢部

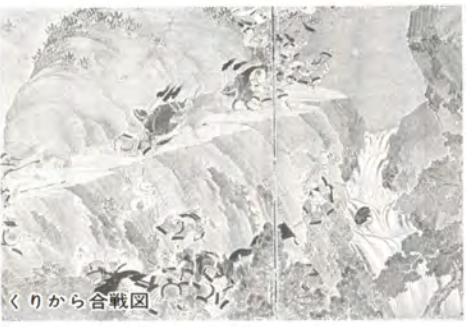


桜谷古墳(高岡市大田)

川以西の山縁、呉羽と射水南部の丘陵及び立山町付近に分布しており、高岡市桜谷、婦中町羽根山の古墳が特に有名です。富山県はもと越中とよばれていました。古代越中国の中心は伏木で、ここに国衙があり、都から赴任してきた国司が政務をとっていました。七四六年に越

中世

越中の中世は、一一八三年の



くりから合戦図

木曾義仲侵入で幕をあげました。越中武士団の多くは源氏につき、俱利伽羅で戦い、都にのほりました。また一二二一年の承久の乱では、宮方につきました。中世の越中は、幕府が守護所を置いた放生津における元弘の合戦、南北朝時代の宮方と武家方の戦い、守護畠山氏や守護代の神保、遊佐、椎名氏、それに土豪の石黒氏らの争いなど、戦争に明け暮れた時代でした。十五世紀後半頃から真宗の教化がひろがり、勝興寺、瑞泉寺等を中心に、一向一揆が在地の武士や越後長尾(上杉)氏の侵入軍と激しく戦いました。

近世



富山城

越中の戦乱は、織田信長の部将佐々成政によって鎮圧され、豊臣秀吉の天下を喜ばぬ成政を破った前田利家、利長が越中全域を支配下に治めたのは、一五九五年でした。一六五八年、三代藩主利常は、次子利次に新川郡の一部と婦負郡を分封し、十萬石の富山藩をつくりました。加賀藩と富山藩の農政は改作法という独特の施策で行われ、農民代表の十村を封建末端機構として、二五〇年間、米中心の経済が続けられました。越中は百万石の穀倉であり、高岡と砺波地方の産業は加賀藩の金蔵でした。また富山藩では今日にも伝わっている出稼売薬が起り、経済を支えていました。

近代

神仏分離

明治の世になって、仏教王国富山を震撼させる事件が起りました。明治元年の神仏分離令です。全国に廃仏毀釈の嵐が吹き荒れ、富山藩では八宗二四一か寺を七か寺に合併させるといふ令が指令されました。混乱は数年して治まりましたが、神仏混淆の僧坊では教勢が衰え、多数の仏像・仏具が失われました。

農民騒動

明治二年、新川郡に大凶作が発生しました。農民たちの救済米要求に役人が取合わなかったばかりか、厳しい取立てを進めたため、激しい一揆が起りました。

富山県分立



塚越村はらんどり騒動の中心人物忠次郎の碑

た。有名なばんどり騒動です。同四年、地租が改正され、租税が米納から金納に変わりましたが、その負担が江戸時代より高かったうえに不作が加わり、砺

波郡で農民騒動が起りました。この騒動のあと、地租が少し軽くなり、小作権がしだいに認められるようになりました。

自由民権

これより先、海内果によって自由民権思想が県下へ伝えられ稲垣示らが中心となり、本県でも国会開設運動が起りました。明治十五年には稲垣らが北立自由党を、そして島田孝之らが越中改進黨を結成し、自由民権運動が激しく燃えあがりましたが、この運動を推進したのは、当時の教養ある地主層でした。

学校開設

明治の初年は文明開花の時代で、その象徴となったのが明治五年の学制発布でした。この学制を受けて翌六年、県下で最初

農業振興

の小学校が伏木で開校され、一年後には三六四校になりました。近世以来、米以外に主要な産物のない富山県では、県民所得増進の道は米の増産だけでした。明治以後、耕地整理と湿田の乾田化、魚肥使用の増大と化学肥料の併用、そして品種改良と農具の改善に不断の努力が続けられてきました。その結果、明治末期の収穫高は初期の一・五倍になりました。しかし小作の大部分は生活が苦しく、凶作ごとに多数の農民が北海道へ移住し、その数は六万人に及びました。



水郷射水の水車



米沢紋三郎

伏木港と富山港

他地域に開かれた自由な門戸が、北側の海だけという本県にとって、昔から船と港は、想像以上に大きな役割を果たしてきた。中でも伏木と東岩瀬は特に重要な働きをしてきた港です。しかし明治の世になると、和船の船着場にすぎない両港には新しい時代の経済活動に応ずる能力のないことがわかってきま



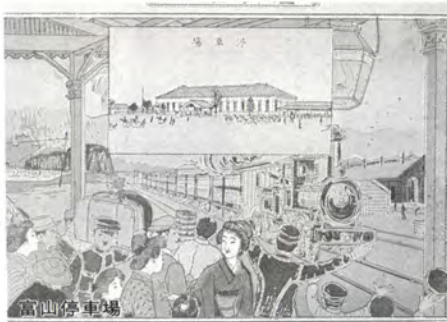
大正2年の伏木港 帆船と蒸気船が混在しています

した。そこで伏木港では藤井能三が尽力し、明治八年、同港を西洋型船の定期寄港地にしました。同二十三年、同港はまず特別輸出港に指定され、三十二年に開港場となりました。大正元年、小矢部川と庄川の河口分離と築港工事が完成し、伏木港は名実ともに近代港湾として、本県を支える物資集散の基地になるとともに、同港周辺に工業地帯を立地させました。

いっぽう東岩瀬港では、大正の頃から神通川と港を分離する工事が、また昭和に入ると築港・富岩運河建設と同港周辺への大工場集積が実現し、近代港湾の形が整い、昭和十八年、港名を富山港と改めました。

道路と鉄道

富山県と他地域を結ぶ道路はいずれも険阻です。それで比較的低下な西部山地を越えて関西と結ぶ北陸道の改修が、最初に取上げられました。この後県下の主要道路は順次、車が通れるように改修されていきました。



富山停車場

しかし暴れ川の多い富山県では、昔から愛本橋や神通川舟橋以外に、ほとんど橋がなかった。架橋が大問題でした。ところが土木費の大部分を治水堤防工事に向けていたので、橋の新設には、地域住民の寄付金や国の補助が必要でした。しかも手続きに時間がかかり、大変な苦勞が続いたそうです。

明治三十年、大矢四郎兵衛らの努力で、民営中越鉄道の一部が開通し、高岡・福野間に本県最初の岡蒸気が走りました。翌三十一年、官営北陸線が高岡まで、三十二年には富山まで開通しました。米原・直江津間の北

陸全線が開通したのは大正二年のことです。



神通川の船橋

米騒動

海陸交通の整備で、他地域と自由に結ばれるようになった富山県では、経済活動がしだいに活発になりました。したがって、



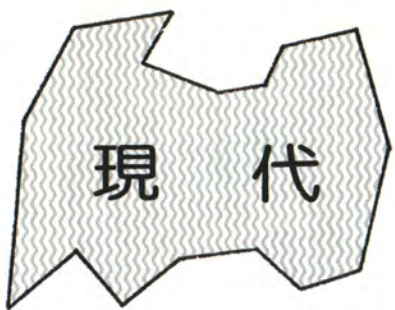
本県の主要産物である米の買占めや、他地域への移出増加も激しくなり、それにとまう米価高騰で、大正七年、県東部で米騒動が発生し、全国的に波及するにいたりました。



富山市の空襲惨禍

戦時経済

昭和六年の満州事変以後、日中戦争をへて太平洋戦争敗戦に至る十五年間は、軍需物資の生産を中心に、本県の経済活動が飛躍的に拡大した時です。しかしこの戦争に支えられて成長した本県の経済は、昭和二十年八月の富山空襲と敗戦で、致命的な打撃を受けてしまいました。



復興と発展

戦後の富山県は、戦災都市富山の復興着手で幕をあけました。昭和二十九年の富山産業博覧会は、同市の復興宣言として、人に力強い印象を与えました。思いきって広くとった道路は、全国の諸都市にとって羨望の的であり、高層ビルの林立する県都の景観は、戦後三十年間における人々の意欲と活力、それに努力の象徴といえましょう。

戦後最大の変革は昭和二十二年の農地改革です。この改革で多数の小作が自作となり、激しく燃えあがった生産意欲によって土地改良や農業技術は著しく

進み、米の収穫高倍増への道を開いたのです。

戦争直後壊滅状態だった工場では、生産内容を軍需から民需



富山市

へ切りかえ、昭和二十五年頃から急速に発展してきました。同時に伏木・富山港も整備され、北陸本線の複線電化や、三十九年の富山・高岡新産業都市指定と相前後して富山新港着工と巨大な工業用地造成がきっかけとなり、本県の工業は、県下一円にわたって大きく発展しました。



富山新港

矛盾と課題

ただ経済が予想以上の早さで成長したので、生活環境や交通の整備が遅れがちでした。農工の一体化が進み、兼業率の高くなった農村と都市地域を結ぶ道路や橋の新設と整備、膨脹していく都市の上水道や下水道の整備、それに山間部の過疎化対策等は、現在も県にとっての重要課題です。

また本県の工業は、安い電力と豊富な水を利用する電炉電解の化学工業や、紙パルプ工業を中心に発展してきたため、煤煙・悪臭・廃棄物・排水汚染等の公害を起しやすい欠点ももっています。県民の所得水準向上に大きな役割を果たしてきた県内諸工場を、今後どのように生かしていくかも、県にとって大きな課題です。

教育県富山

戦後の変革で忘れてならないのは教育です。昭和二十二年の教育基本法公布以来、教育委員会と六・三・三の新学制施行で、教育はすっかり変貌しました。

現在の富山県は全国屈指の教育県と言われています。それは高校や大学への高進学率、能力開

発への取組みや教育内容と教育施設の充実、社会教育や生涯教育の振興等に寄せられている評価なのです。また文化財、とりわけ埋蔵文化保護への取組みも見のがせません。

今後の取組み

明治十六年に石川県から分離独立した富山県は、昭和五十八

年に置県百周年を迎えます。その年をめざし、県ではいま、福祉行政の充実と企業の発展、青年の活力増進、芸術文化の振興と余暇の活用、県民公園建設、花と緑の県づくり、歴史をふまえての郷土の見直し等に、真剣な取組みをしています。



県情報処理教育センター

富山県の現状と将来



県庁2階玄関にある「富山県の将来と現状」の立体パネルはこれからの富山県の姿を色別で解説し、住みよい富山県計画がよくわかります

私の提言



私は今年満七十才ですが、それまでに富山に在住したのは、旧制富山高等学校卒業までの二十年に満たない期間です。人間は何処に職場を得られるのかは、自分の希望通りにはなかなかいかないものですが、私も第一の志望は富山でしたが、奇しくも東京の銀行に勤務することとなり、この時に私の今日までの生活の進路が決まったようなものです。まず命運といえますか。

私は昭和六年から四六年間、ほぼその前半を金融、その後半を石油の仕事をして来ました。金融は志望の仕事の一つでありましたが石油は全く不意に私の後半生を束縛してしまいました。しかし、この二つの仕事に共通することは、いずれも公共性の強い内容を持つこと、殊に金融の種類が産業金融で、商業金融と違って、融資の対象となる業種が長期的

に景気の変動にどのように対応出来るのかを判断すること、単に現在儲かっていることだけでなく、長期的にどうなるであろうか、そのためには日本、更には世界の事情を勉強する必要があります。

また石油は産業の血液といわれる程重要な物資であるにもかかわらず、日本は一〇〇％輸入に頼っています。石油業界には現在日本の将来が維持出来るかどうかに関連する程重大な問題がありますが、依然として販売競争が激しくて、たいへん不安定な状態が続いています。ただし、エネルギーとして必要なものは一致協力して確保しなくてはならないとの努力をしているのも事実です。そのためには国際的な研究と行動をしています。

私は今年の会社の入社式で新入社員に対し「諸君は一旦自分の仕事は〈これ〉だと決めた以上、その決定した仕事については誰にも負けぬ専門知識を持つ必要がある。そのためには五年、十年を要するであろうし、また何時かはそれが国家社会と、自分自身に役立つことに自信を持ちなさい」と話しました。

職場が中央であろうが地方であろうが、また、仕事の種類が何であれ、仕事に対する考

え方、心構え、軽重等はその人の人世観、価値観で決まるものと思います。自分の生活と仕事をどのように結びつけるか、更には仕事を社会生活とどのように価値づけるかは全くその人の判断による外はないと思います。ただし、青壮年時代は未だ人生観、価値観、社会観が不安定ですから、本当の仕事をするためにも、充実した知識経験が必要でありましょう。ある程度の集積が出来てはじめて仕事の尊さが理解出来、また意義が決まると思います。これが私の体験です。従って若い時の学問的勉強は自分の人間形成をより一段と高めるだけでなく、終生続けなければならぬ勤労の価値を充実させるために、ぜひとも必要と考えます。

県民のみなさん、私は折にふれ富山県のことを思います。知事もたいへん県政に熱心で、一段と民生と工業生産の向上に苦勞しておられるようです。日本の国際化は年々拡まっていますので、富山にいてもその仕事の世界の隅々と繋っているとの認識のもとに働いて下さるように祈ります。

みつだひろたか

(株)大協石油会長



本百河暴

「これは川でない。滝だ」

明治二十四年、治水工事指導で来県したオランダ人土木技師デレーケが、常願寺川を見て叫んだのが、このことばです。

富山県の山地は、県全面積の四分の三を占めています。それに全国有数の多雨多湿豪雪地帯なので、この山地から流れ出る河川は水量が多く、急流です。川の数は本流と支流を合せて九八本、総延長千三百餘。全国に稀な河川県です。

富山県は越中と呼ばれていた昔から、河川の洪水で悩まされてきました。なかでも安政五年（一八五八）の常願寺川大洪水は「大驚崩れ」といわれ、その

惨禍は、富山城下をはじめ同川流域一帯を濁流泥土の海と化し、死者千二百人、家屋流失千六百戸、流失田地二万五千石、被害村落百六十以上を出したと伝えられています。

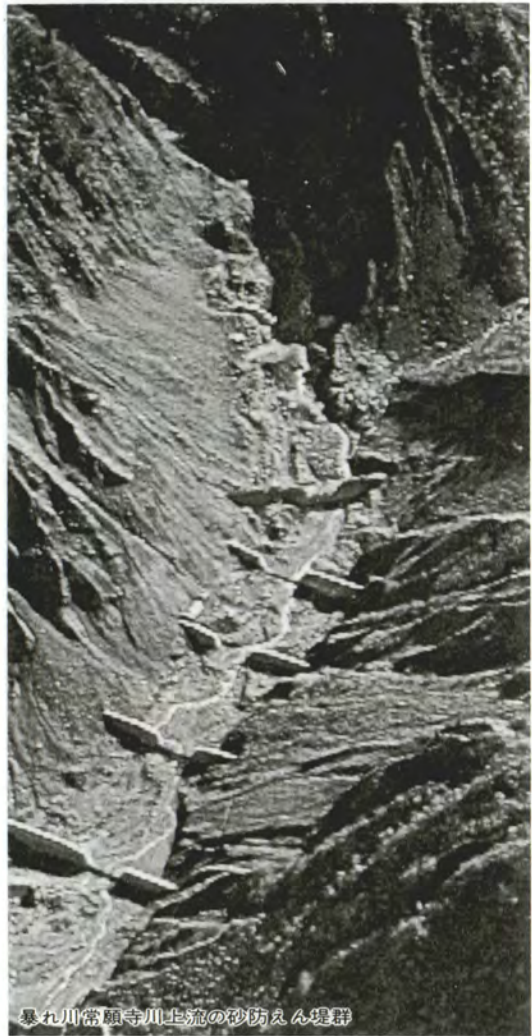
明治元年から昭和四十年までに県下の河川で発生した洪水は四六九回、その九割が大正五年以前に起っています。ために富山県は、治水を国防とならぶ重要施策となし、大正初期以前には県財政の四割以上、時には七割も土木費にあて、しかもその土木費の八割以上を治水堤防費

としていました。これでは学校を建てることも、道路を整備することもできません。しかしそれが当時の実情だったのです。

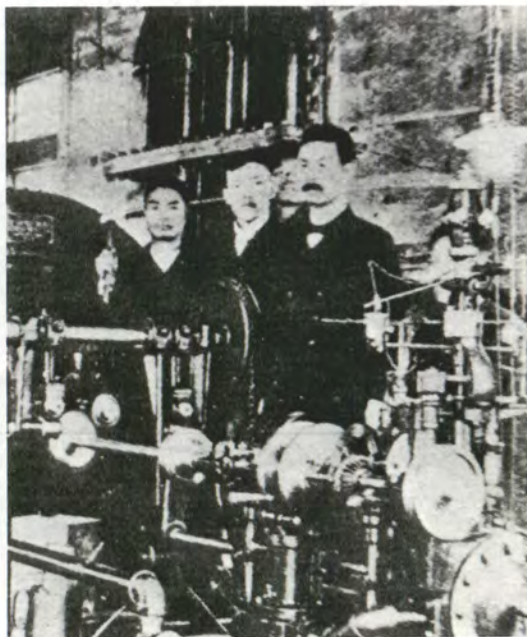
ところが大正中期中以後、県財政に土木費の占める率が二割台に低下します。それは各河川の上流に水力発電所やダムが設置され、流量の調節が行われるようになり、洪水の発生件数が激減したからです。

富山県で最初の水力発電所は、明治三十二年に操業を開始した

電源王国へ



群えん防砂の上流寺常願川暴れ



所発保大の当時の初内県

神通川水系の大久保発電所です。この発電所の誕生は、永い間、洪水によって人々を苦しめてきた河川が、県民所得向上に寄与する貴重な財産として見られるようになるきっかけとなりました。

これ以後、県内資本はもとより中央資本によって、次々と発電所が建設されました。大正九年には県知事東園基光の積極的な提案で、治水、財政、産業の強化振興を目的とする県営電気事業が発足しました。この事業によって県営発電所が七つ建設され、昭和元年からは事業収益の一部を県財政へ繰入れること

ができるようになりました。

こうして富山県は全国有数の水力発電県となり、電源王国と呼ばれるようになりました。今でも本県関係河川には、一部県外を含め一二八か所の発電所があり、二四七万キロワットの発電能力を備えています。

工業県成立

はじめ電気は、もっぱら電燈用でしたが、明治の末頃から工業用電力として用いられるようになりまし

大正期の初め、第一次世界大戦時の好況を背景として、伏木港周辺に重化学工業中心の臨海工業地帯が生まれました。この時、最初に同地へ進出した日本鋼管の電力料金は、一キロワット六厘五毛で二十年間値上げなしというものでした。同じ頃京浜地方では二銭五厘だったので、富山県に進出した中央資本の工場には、こうした低電価にひかれてきたものが多いのですが、電力料金を安くしないと、工場誘致に足りなくなかったというのが当時の実情でしょう。



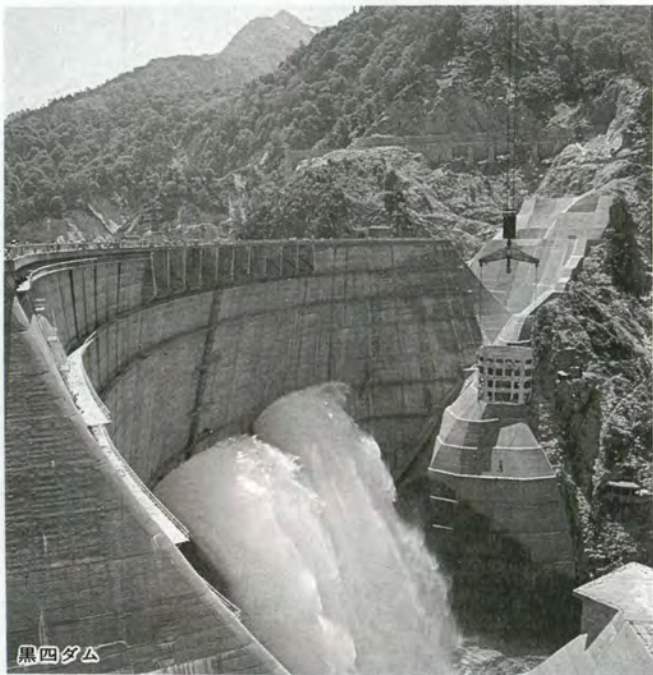
港山富

昭和二年、県東部で電燈料金の値下げを求める電気争議が発生しました。それは、本県の工業を發展させた低電価が、一般県民の支払う電燈料金を高くすることで支えられていたのではないかと

の疑問が起ったか

水資源利用

河川は穀倉富山を支える灌漑用水供給源として重要な役割を果たしています。県内の農業用水は大部分、水力発電用ダム建設



ダム四黒

が電燈料金値下げを認めるまで鎮まりませんでした。工業用電力料金が安いという事実はその後も続き、それが主要な条件となって、昭和初期に

は鉄道沿線に次々と紡績工場が生まれ、同十年前後には、富山港付近に重化学工業中心の工業地域が新しく成立しました。こうして工業県富山の形が、しだいに整ってきたのです。

事上の理由で架橋が許されなかったこともあり、交通の障害としての長い歴史をもっています。そうした中であって、小矢部川と庄川・神通川の下流だけは輸送路として長い間、人々の生活を支えてきました。とりわけ小矢部川の水運には千数百年の歴史があり、砺波平野の動脈の働きをし、河口の伏木港を發展させた要因となっています。

富山県は資源の乏しい県ですが、水だけは豊富で、これが上水道普及率を高める原因になっているとともに、工業用水として本県の工業發展に大きく役立ってきました。しかし現在、一年間に降る約二百億トンの雨のうち、百三十億トンが未利用のまま、富山湾へ流しています。これをどのように利用するかが本県にとって今後の重要課題なのです。また黒部峡谷・神通峡・庄川峡・有峰ダムや黒部ダムのように、観光資源として自然を生活の中に取り入れるなど河川を見直すのも、今後の課題といえます。

豊かな 水資源

水を制御する富山県



水の一生



県庁正面玄関の二階の両袖に目でみる富山県勢として「富山県の現状と将来」という立体パネルと、この「水を制御する富山県」という模型がこの程完成しました。

豊かな水資源を農業に発電に工業に生活用水にと、いかに有効に利用しているかが一目でわかります。

県内の地形を忠実に画くこの模型は、県庁を訪れる県内外の方々にたいへん好評で、富山県を識るうえにも参考になるものです。

工業県富山

富山県では、どの市町村へ行っても大きな工場があります。ひなびた北陸というイメージに程遠い工業県富山の景観は、大正期から昭和十年代までに生まれ、戦後大きく育ったものです。本県の工業は、豊かな労働力、工業用水、それに、かつて電源王国と呼ばれたほどの数の多い水力発電所が、融雪、降雨期に供給する安い不定時電力等が条件となって発達したものです。これらの条件にひかれて、伏木、富山両港周辺に金属・化学・鉄鋼・パルプ等の重化学工場が進出し、臨海工業地帯を形成しました。また鉄道沿線の市町村に展開したのは、繊維・紙・カーバイド等の工場でした。

戦後は繊維・化学・鉄鋼・機械・アルミ・フラスナー等の工場が多く立地し、昭和四十三年に開港した富山新港周辺には、アルミ精錬・アルミ加工・電力・木工・化学等の工場が進出しています。

富山県の工業は素材生産工場が多く、工場間の有機的連繋や、下請工場との共存関係に乏しいのが特色でした。しかし最近ではアルミサッシやフラスナー生産のように、原料の精錬から製品までの一貫生産方式をとるもの



伏木港

農業県富山

や、石油、電力、化学系の工場のように、コンビナートシステムをとるものが目につきます。

富山県は全国一の水稲単作県です。どうしてそうなったので

しょうか。本県で豊かな資源といえば水です。それに富山平野の大部分が扇状地で、灌漑用水を得やすいことが、水稲耕作一本の産業構造を生み出したといえます。米中心の経済のもとにあった江戸時代、越中は加賀藩政を支える穀倉に成長しました。そして驚くほど広大な新田開発が行われました。

明治期以後でも、米以外にめばしい産物のない富山県では、港・道路・鉄道の整備までが、特産物の米を大消費地へ、いかに早く、多く輸送するかを目的に進められたのです。もちろん、耕地整理、品種・肥料・農具等の改良によって、米の増産への努力も行われました。こうして、水稲単作という本県農業の特色が生まれてきたのです。

水稲単作地帯である本県の農村には、季節的な余剰労働力が多いため、もとは全国有数の出稼県でした。しかし通勤可能な地域に工場が立地されるにつれ、兼業農家がふえ、ついに今日の農工一体という特色ある県をつ



農業構造改善事業日本一の富山県

体質と気質

人間の頭形は、人種や住む地

域によって違ってきます。頭形が前後に長いものを長頭、短いものを短頭、そしてその中間のものを中頭といいます。日本人は全般に短頭型とされています。関東以西の住民にとりわけ短頭の特徴が強く、東北地方の住民には中頭の傾向がめだっています。しかし北陸では、新潟県と富山県が中頭地域に入

っており、住民の体質は東北地方型なのです。体質と同じく、気質にも地域差があるといわれています。心理学上の分類によると、富山県は分裂質地域に入っています。この気質は、富山、岐阜、愛知三県を結ぶ線以东に主として分布しており、石川、福井、滋賀、三重の諸県以西では、躁鬱質の傾向が強いのです。つまり富山県の住民は、体質も気質もともに、東日本型なのです。

京都式アクセント圏に属していますし、東西の言語境界線が、新潟県の糸魚川辺にあることも、ほぼ定説になっています。富山県の住民は、生まれつきあまり変らぬ体質や気質では東日本型なのですが、社会の影響を強く反映する方言は、西日本型になっているのです。

県民性

江戸時代に出版された「人国記」という書物に「越中の人は陰気の中に智あり。佷なる気多し」と記してあります。越中人は邪悪で腹黒いといわれています。また「越中強盗、加賀乞食、越前詐欺」という俗語もあります。ずいぶんひどい評言ですね。

賢いといわれています。しかしそれを裏返すと、強気で勝気、しかも忍耐強く、積極的でよく働く富山県人の姿が浮かびあがってきます。本県人はまた、概して権力密着型ですが、自立心が強いともいわれています。富山県は、本州の中央に位置しています。また日本歴史の中心舞台である関西や関東からみても、ほぼ等距離にあります。ためにこの地域は、しばしば東西両勢力競合の嵐に巻き込まれてきました。そうした自然、関係位置と歴史の中で生きぬいてきたのが、私たちと私たちの先祖なのです。



横綱 太刀山



横綱 梅ヶ谷

方言

富山県の方言は、下新川地区のように、東北方言の特色がかなりみられる所もありますが、全体としてみると、本土の西部方言の中に含まれています。また富山県は、総体的にみて

江戸時代に出版された「人国記」という書物に「越中の人は陰気の中に智あり。佷なる気多し」と記してあります。越中人は邪悪で腹黒いといわれています。また「越中強盗、加賀乞食、越前詐欺」という俗語もあります。ずいぶんひどい評言ですね。たしかに富山県人は、一般に陰気で取付きにくく、時には悪

富山県人の性格は、こうした中で育ってきたのではないのでしょうか。またことばや生活に、西の影響が強いのは、どちらかと言えば、関西の勢力下にあった時代が長かったためでしょう。本誌編さんにあたり県教育センター教育専門委員、古岡英明氏にご協力をいただきました。

慢自慢 味自慢

越中の謡曲

越中を舞台にした謡曲に「藤」「善知鳥」「木曾」があります。「是ははや越中国多枯の浦とかやに著きて候。この所は藤の名所と承わりおよびたるに云々」とある藤は、氷見市藤波神社にあり、立山の地獄谷を謡った善知鳥。木曾義仲が殖生八幡（小矢部市）の社頭で大夫坊覚明に書かせた願文奉納を謡った木曾です。

如意の渡し 義経記

歌舞伎の勧進帳で弁慶と義経の安宅の関の物語がありますがこれは謡曲の「安宅」から発展

したもので、「義経記」には高岡市伏木の「如意の渡し」の出来事になっています。義経一行が一時の雨を晴らしたといわれる雨晴し海岸は、当時をしのぶ景観です。

も駆逐して北越をその手に治めようとして、天正十二年成政は前田方の能登の末森城を襲い加賀との連絡を絶ち、前田方を個々に砕こうとしたが成功せず、家康に援けを求めて、雪中にもかかわらず立山のザラ峠を越えて浜松に向ったといわれます。

雪のザラ峠越え

世界を一周した志賀重昂は、「かかる大景観は、南アメリカの南アンデスと立山連峰のみ」と折紙をつけた立山には、信仰伝説が数限りなくありますが、富山城主佐々成政は、本能寺の変後、織田信雄を仰いで主家の再興を夢み、東に上杉氏を圧迫し、秀吉に同心する前田利家を

県内には古くからうたい継がれる民謡が多く、日本三大民謡といわれる「越中おわら節」をはじめ、平家の落武者たちが伝えた「麦屋節」や「といちんさ節」があり、また中世の田楽の施律を残す「こきりこ節」は、



義経が雨晴した海岸から立山連峰を見る

学校の教材に採用されてからは全国的に歌われています。糸紡ぎ歌の「布施谷節」銅器づくりの所作を入れた「やがえふ節」、大漁を祝う「鯛大敷網大漁節」雄壮活発な「せり込み蝶六」などさまざまな民謡が保存されています。

雷鳥ライチヨウ

昭和四十一年に富山県鳥に指定された特別天然記念物ライチヨウは、日本アルプス連峰と白山の山嶺だけに棲む留鳥で、立山神のお使いとして古くからあがめられ、寒い高山に棲むところから「寒苦鳥」とも呼ばれています。「雷鳥」と書くのは、雷雨のやってくるような雲ふかい日

昭和四十一年に富山県鳥に指定された特別天然記念物ライチヨウは、日本アルプス連峰と白山の山嶺だけに棲む留鳥で、立山神のお使いとして古くからあがめられ、寒い高山に棲むところから「寒苦鳥」とも呼ばれています。「雷鳥」と書くのは、雷雨のやってくるような雲ふかい日

等は、天敵のタカやワシなどにおそわれる危険が少ないために、ハイ松のしたから出て行動する習性があり、またライチヨウが出る雷が鳴るとい言い伝えがあるところからこの名があります。いま富山県ではライチヨウを保護するためのスキー規制などしています。登山客等にさかんに愛敬をふりまき、観光立山に一役をかつているライチヨウを大切にしましょう。

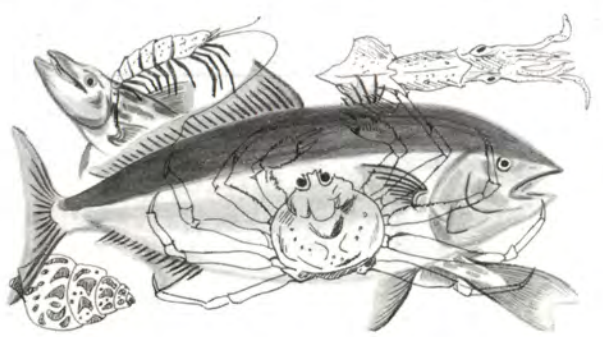
越中の祭礼

富山の祭の幕明けは、天をもこがす雄壮な「魚津の火祭り」（一月二六日）で始まります。二月は第三土曜日の「宇奈月町雪の芸術祭」。四月に入るといよいよ祭は最高潮。県下各地で獅子舞や曳山車がでます。主なもの立山町雄山神社祭（八日）。福光町屋台祭（十五、六日）。砺波市のあてやかな子供歌舞伎曳山車（十六、七日）。氷見市のきれいどころのまるまげ祭（十七日）と雨乞いのゴンゴン祭（十八日）。富山市の全国チンドンマンコンクール（第三土、日曜）。高岡市気多神社まいり（十八日）。宇奈月町法福寺の稚児舞（十八日）。新湊市えびす舞のボンポコ祭（二十日）。富山市四方の屋台祭（二十日）。富山市の花チューリップフェアが砺波市であります。五月は、前田利長が秀吉から拝領したという桃山文化の圧巻高岡御車山祭（一、二日）であけ、夜は福野の夜高祭（一―三日）。

越中の味（魚貝類）

「キトキトの魚食べんまいか」（新鮮な魚を食べましよう）という位、富山湾では四季とも美味しい魚貝類がたくさん獲れ、県民は古くからキトキトの魚に舌鼓をうってきました。

りがこりこりして実においしい。駅弁の中で特においしい弁当として有名な「ますのすし」は富山の名産で千年の歴史があります。イカを刺身のように細く切ってイカのスミを加えた「黒作り」は、酒の肴に喜ばれ、熱い飯の上のせてたべる越中独特の珍味。イカとくれば特筆すべきは富山湾にだけしかない「ホタルイカ」があります。春になると二〇〇メートルの深海から繁殖のために浮上してくるこのイカは、長さ三センチにもならず、その身体が光り、きれいなことから「螢イカ」と呼ばれ、その群遊海域が重要天然記念物に指定されています。この群生地付近は有名な「蟹気楼」のたつところであることから、竜宮の使いともいわれ、その足だけをとって食べるのを「竜宮のソームン」と珍重され、アサツキ（春の野生葱の一種）との酢味噌和えがおいしい。ちなみに特別



高岡御車山

まず代表は「ブリ」。富山湾に敷かれた大敷網にかかる寒ブリのサシミなどは、口に入れたらとけていく位に油がのって最高の味。朝日の宮崎海岸には、スケソウダラをぶつ切りにして、季節の野菜とみそで大鍋で煮る「タラ汁」があり、野趣味があつて実にうまい。

「ズワイガニ」「ベニズワイガニ」は松葉ガニや越前ガニと同種類で、その味わいの淡白で美味なことがお客にうけて、料理に欠かせない一品となっています。ズワイガニの雌はマンジュガニといい、その卵はこれまた珍味で喜ばれています。

いろいろな貝類の中に「バイ」があり、巻貝の一種だが歯ざわ

天然記念物関係で食べることが許されているのはこのホタルイカだけです。もう一つうまいものに「あまえび」と「しろえび」があり、あまえびの刺身は自然の甘味で、わさびや醤油の必要はなく、にぎりでは富山ならではの味です。しろえびは富山湾の深海にだけ産する珍しいえびで、えびはゆでると赤くなるが、このえびはゆでも白いのが特徴です。



郷土に輝く人びと

政治

「……加・能人ノ急務トスル道路ノ開サクハ越中人ニ何ノ利益モナク、越中人ノ必要トスル堤防ノ築造ハ加・能人之ヲ無用トシ……」これは明治十五年、当時石川県会議員であった「米沢紋三郎」(入善町)が、石川県から富山県を分県するために陳情した建白書の要旨です。

かくて「表紙」に掲げた太政官布告が発せられたのです。富山県議・衆議院議員となった紋三郎は、その間「越中自治党」越中改進黨」を結成する等財を投じて尽くしました。またこの時代の政治家としては、板垣退助の国会期成同盟に

呼応、北立自由党を結成し、富山県の分県運動のきっかけをつくるなど、自由民権運動に生涯をかけた「稲垣示」(大門町)。示とは対象的な越中改進黨の中心的人物、中越鉄道布設の「島田孝之」(砺波市)がいます。昭和期に入っては、日中国交回復の基盤をつくった「松村謙三」(福光町)。プロ野球、テレビ放送の創始者「正力松太郎」(大門町)等、全国に名だたる政治家が多数輩出しています。

産業

銭屋五兵衛と並ぶ実力者、伏木の回船屋能登屋の長男「藤井能三」は、伏木築港をはじめその背後地の道路・鉄道の整備燈台の設置、くりからの天田峠の開通など、富山県が東海と結び、日本海をはさんでシベリヤとの貿易をはかるなど、経済開発に終生没頭しました。能三のこの努力は、現在の工業県富山の基盤となっております。産業の分野では日本の銀行王「安田善次郎」(富山市)。セメ

社会

維新後の文明開化のあしあとを敏感に受けとめた「海内果」(富山市)は、耕作のかたわら読書を怠らず、藩政の封建政策を憤り、相益社を結社して日本の進む道を啓蒙、東京日報社の福地源一郎に見出され、青雲の志を抱き上京、天下の耳目を集める日本の思潮を導く政論に健筆をふるいました。また郷里を思う心強く、藤井能三のシベリヤ貿易を支持し、一方鉄道を北陸越中義塾を創設するなど民権実学の実践者として尽くしました。その他富山高等学校創設者、「馬場はる」(富山市)。チューリップ栽培の親「水野豊造」(砺

学問

近代医学の先駆者「黒川良安」(上市町)は、十二歳で長崎の吉雄権之助に蘭学を、シーボルトに西洋医学を学び、また高島秋帆、緒方洪庵に師事し広く蘭学を身につけ、江戸に出て佐久間象山らの英才教育にあたりました。帰国後は加賀藩主の侍医となり、嘉永二年には天然痘予防の種痘を行い、明治元年に金沢大学医学部の前身の医学館の設立に参画、教授を勤めるなど、北陸地方の医学進歩に大きな功績を残しました。学問の分野では、タカジャスターゼの「高峰讓吉」(高岡市)。

芸術・文化

富山県で「人間国宝」に指定されたのは、陶器の「石黒宗鷹」(新湊市)と謡曲の「松本謙三」(城端町)の二人がいます。女流作家の「小寺菊子」(富山市)。日本画家では「石崎光瑠」(福光町)と「郷倉千靱」(富山市)。日本音楽教育の「福井直秋」(上市町)。児童文学の「大井玲光」(富山市)。ぎんぎんざら(夕日)の「室崎琴月」(高岡市)。寺社大工の巨匠「松井角平」(井波町)など多彩をきわめています。

県政親子バス教室が発車

一般県政バス教室(7月・8月分)募集

県政親子バス教室—学校の夏休み期間中を利用して、親子で県の施設や事業を見学して、県政に対する理解と関心を高めていただこうと、今年も次のような計画でバスが発車します。どうぞご利用下さい。対象は児童クラブ等青少年団体の構成員(親子)で約50名の団体及び若干の一般親子。応募方法は、郵便はがきに団体名、市町村名、代表者氏名、連絡責任者氏名とその電話番号、運行希望月日を次の区分により申し込んで下さい。一般親子もこれに準じます。

バス運行日 各地区 7月28日(木)、8月4日(木)
バス運行台数とコース 総台数8台でコースは下表のとおりです。

申込先	所在地または居住地	申込み先	住所	電話番号
富山地区	富山市・新川郡・婦負郡	富山県知事公室広報課	富山市新総曲輪1-7 県庁内	0764 ③3131
高岡地区	高岡市・新湊市・氷見市・射水郡・福岡町	高岡地方県民相談室	高岡市赤十字211 高岡総合庁舎内	0766 ②9411
魚津地区	魚津市・黒部市・滑川市・下新川郡・中新川郡	魚津地方県民相談室	魚津市新宿10-7 魚津総合庁舎内	0765 ②5311
砺波地区	砺波市・小矢部市・東砺波郡・福光町	砺波地方県民相談室	砺波市幸町1-7 砺波総合庁舎内	07633 ③5151

申込期間 5月1日～15日までです。参加の決定は、抽せんによって決定した団体及び個人に通知します。携行品など—参加費は無料、入館料の実費。昼食やお茶は必ず持参して下さい。団体参加は、団体が指定する場所まで送迎しますが、一般の方は県の指定場所で乗車。一般県政バス教室 7月分と8月分を募集します。コースは下表のとおりです。申込先、応募方法、決定、送迎、携行品などは親子バスと同様です。

児童の権利を尊重し、その幸せと健やかな成長の願いをこめて児童憲章が定められたのが昭和二十六年五月五日です。以来、毎年五月五日の子どもの日から

児童福祉週間

十一日までを児童福祉週間として、国民の意識を高めることとされております。児童をとりまく環境は、核家族化、婦人の就労の増加、テレ

場の不足とも相まって安全性・健全性の欠如等の問題がそこかしこに見受けられます。児童が成長する過程で健康で和やかな家庭と良い地域環境は

「県政親子バス教室」コース表

地区	コース	運行日
1. 富山・魚津地区バス	富山新港 → 瑞穂寺 → 木材試験場 → 県庁 → 富山放送局 → 富山交通センター	7月28日(木) 9:30-9:50, 10:20-11:00, 11:20-12:40, 13:10-13:50, 14:20-15:10, 15:20-15:50, 16:00-16:30
2. 高岡・砺波地区バス	高岡 → 山ノ内 → 山ノ内 → 山ノ内 → 山ノ内 → 山ノ内	7月28日(木) 10:30-11:10, 11:30-12:30, 13:30-14:20, 14:30-15:00, 15:30-16:10, 14:30-15:00, 15:40-16:20

「県政バス教室」7月8月分コース表

地区	コース	運行日
富山地区	新生園・工業試験場・(太閤山団地)・(医療大学経由)・県庁・九重荘	7月28日(木)
高岡地区	(新港経由)・衛生学院・身障者更生指導所・県庁・流杉老人ホーム・(医療大学経由)	7月28日(木)
魚津地区	九重荘・中央卸売市場・八尾園・県庁・(社福総合センター)・(社福総合センター)・八尾園	7月28日(木)
砺波地区	(頼成の森)・和太田川ダム・二上青少年の家・(新港経由)・県庁・いたち川改修	7月28日(木)
富山地区	新生園・工業試験場・(太閤山団地)・(医療大学経由)・県庁・九重荘	8月4日(木)
高岡地区	(新港経由)・衛生学院・身障者更生指導所・県庁・流杉老人ホーム・(医療大学経由)	8月4日(木)
魚津地区	九重荘・中央卸売市場・八尾園・県庁・(社福総合センター)・(社福総合センター)・八尾園	8月4日(木)
砺波地区	(頼成の森)・和太田川ダム・二上青少年の家・(新港経由)・県庁・いたち川改修	8月4日(木)

●県政のうごき——3月16日～4月15日

3月18日 県立高校合格者発表
1万230人(合格率79.4%)

県立高校(全日制)の52年度入学合格者の発表は、午後12時半、40校2分校でいっせいにこなわれ、合格者総数は1万230人で、志願者に対する合格率は79.4%でした。

3月19日 2月定例議会終わる 新年度予算など原案可決 森岡副知事選任

2月定例県議会は、52年度一般会計、51年度一般会計補正予算、手数料条例一部改正、副知事(森岡政治)選任など原案どおり可決して閉会しました。

3月29日 県営上市川第2ダム補償協定に調印



洪水調節、農業用水、発電の多目的ダムである県営上市川第2ダム建設に伴う補償協定がまとまり、この日知事応接室で地元の地権者代表らと中田知事との間に調印式が行なわれました。

3月29日 氷見市五十谷で地すべり発生 雪どけ水が地下に浸透



氷見市五十谷(いかだん)で約40ヘクタールにわたる大規模な地すべりが発生、民家や建物が全半壊したほか、田畑、山林、道路などが崩壊しましたが、幸い人命に支障がありませんでした。災害復旧に自衛隊を要請、30日に中田知事も現場を視察し、今後の対策を協議しました。

4月1日 富山区・薬大の新校舎移転開始 授業は14日から

富山市杉谷で建設している富山医科薬科大学の新校舎が完成し、旧富山中部高校校舎の仮校舎から杉谷キャンパスへの移転作業が始まりました。51年度事業として完成したのは、講義実習棟、体育館、解剖棟と事務局、図書館、食堂などが入る福利厚生棟です。

4月1日 県庁玄関に目で見える富山県の模型と立体パネル完成



県庁正面玄関の2階階段横の空地に〈目で見える富山県の模型と立体パネル〉をつくり、点灯式を行ないました。向かって東側の「水を制御する富山県」と題した3万分の1の模型は、明るい富山県のイメージを白一色で表わし、生活用水、工業用水、農業用水など豊富な河川水を有効に利用している様や今後の計画を約2千個の豆電球を使用して、わかりやすく解説しています。また西側には「富山県の現状と将来」と題した立体パネルを配し、住みよい富山県を



つくる総合計画に基づいた各種のプランを、部門別にカラー区分して、しかも既設のものや将来計画を濃淡で表わし、これからの県政プロジェクトが一目でわかるようになっていきます。この模型とパネルは、県庁を訪れる人たちに郷土のよさを見直してもらうとともに、県政に対する関心を深めていただき、プロジェクトに対して積極的な意見を求めるためのものです。

知事と語る会日程

知事が各市町村に出向いて、住民の方々と直接語り合う「知事と語る会」は、次の日程で開かれます。多数のご参加をお待ちしています。

5月20日(金)―高岡市・5月26日(木)―立山町
5月27日(金)―舟橋村・5月30日(月)―滑川市

4月1日 第7回県青年の船団員決まる 今年はず連へ 団長は村上元之輔氏

第7回県青年の船は、8月25日から9月7日までソ連を訪問しますが、団員110人(男73人女37人)、役員22人の氏名を発表しました。団長には村上元之輔県教育委員に決まりました。

4月5日 交通弱者の味方 県警交通管理センター開所



富山市内の信号機をコンピュータでコントロールして、車の流れを円滑にするとともに、歩行者などの交通弱者の保護をはかるために、旧交通機動隊庁舎内に、県警交通管理センターが開所しました。

4月6日 勤労者いこいの村開設準備室できる 婦中町細谷地内に54年春オープン

県が雇用促進事業団と共同で婦中町細谷に建設する「富山勤労者いこいの村」の開設準備室が、県庁内に設けられました。週休2日制の普及から余暇利用と家族ぐるみの健康増進と福祉向上を図るために建設されるこのいこいの村は、54年春にオープンする予定です。

4月6日 緑の少年団を指定 高岡・砺波・小矢部・福光・婦中

52年度から3カ年計画で「みどりの少年団」を15団新設しますが、今年が高岡・砺波・小矢部・福光・婦中の5市町村を指定しました。緑を愛し情操豊かな少年を育成することを目的とした「みどりの少年団」は小中学生で構成、20日から始まる緑化週間にそれぞれ結成いたします。

4月6日 今年度の県政バス教室 第1号出発



県民からたいへん好評を得ている県政バス教室は今年度は150台運行されますが、その第1号が「出発」しました。県政バス教室乗車を申込みになる方は、県庁広報課及び、高岡・魚津・砺波の各総合庁舎内県民相談室へ。

4月9日 知事と語る会 ことし初めて 福野町で開催

午後1時15分から福野町役場講堂で約200人の住民が参加して開かれました。今年度初の「知事と語る会」は、中田知事の県政の考え方をきき、住民側の活発な質疑や意見が交わされました。また11日には氷見市で語る会が開かれています。(なお5月の知事と語る会は上記のとおりですから、最寄りの方の参加をお願いします)

4月13日 県教委―52年度3大目標を設定

- ・人間の生き方を考える優れた知性
- ・自然と芸術に親しむ豊かな心
- ・健全な心を支えるたくましい体

県教委では52年度の重点施策を発表し、三大教育目標を前記のように発表しました。

4月15日 北洋漁業知事会議設置 15都道県が参加

ソ連の漁業専管水域200カイリ設定で、北洋漁業の危機を打開するために、北海道や富山県など15都道県で「北洋漁業関係都道県知事会議」を設置しました。会長に堂垣北海道知事、副会長に中田富山県知事ら3名を選びました。

立山雷鳥図

中島空堂 作
在・県庁玄関壁面



富山木象嵌の創始者中島空堂は大沢野町の出身、高岡工芸学校木工科卒業後、東京の白川洗石に師事し木工芸伝統技術を研修、帰郷後は富山市旅籠町に工房を営み独自の木象嵌の創始に努力された。爾来六十年にわたり斯道に精励、幾多の名作をのこし、その間、各種工芸美術展に入賞、功労表彰、叙勲にも輝き、富山県無形文化財保持作家に指定をうけられた。

立山雷鳥図は翁の代表作で構図の卓抜色彩の調和に苦心が伺われ、とくに選木については神代杉、黒柿、くす、けやき等二十余種類の材質と多彩な木理の美を巧みに組み合わせ、巧妙、精緻、高雅な美しさは、絵画などと異った独自の工芸美術品として完成されたものといえよう。

佐藤良正

野鳥と飼鳥

小鳥屋の店先には、鳥かごに入っている、カナリヤ、ブンチョウ、インコなど、たくさんのお鳥が並んでいます。皆さんは、これらの鳥を野外で見たことがありませんか。富山の公園を探しても、野原や森や街の中でも、まず、見ることはできません。これら

の鳥は、昔から日本に住んでいて、たのびはなく、もともとは、外国から輸入されたものです。一方、スズメ、トビ、キジバトなど皆さんの家のまわりでいつでも見られる鳥は、小鳥屋にはいないはずですよ。

よくみるとおもしろい野鳥

四月の下旬には、市街地の家の庭やアパートのテラスでも、パンくずを置いておくと、ヒナを連れたスズメを観察できます。ヒナが、やっととはえそろうた小さな翼をこきざみにふるわせて口をあけると、親鳥は口移しにエサをやります。とてもかわい

鳥はかごに入れないで

野鳥を飼うことは法律で禁止されています。メジロもウグイスも。ヒバリは大空をはばたき、広い野や畑でさえずっている姿が最も美しく、ウグイスも、陽光を浴び、春の風をほほに感じながら聞く声が美しいのです。ちようと、動物園のライオンではなく、アフリカの原野を走るライオンが最もライオンらしく見えるように。

また、河口に群れるカモメの仲間も、双眼鏡でよく見ると、大きさも、色も、飛び方も少しづつちがっています。鳴き声もニャオー・ニャオーと猫のように聞こえるもの、グアオー・グアオーとわがれ声のもの、鼻

(野鳥の保護のために)

国土利用計画 —富山県計画—

豊かで住みよい生活環境の確保と県土の均衡のとれた発展を実現していくため、総合的な観点に立った国土利用計画(県計画)をこのたび定めました。

この計画は、国土利用計画法に基づき全国計画を基本として定めるものであり、県議会のほか市町村や県の審議会等広く意見を聞き、正しく望ましい県土利用の姿を昭和六十年を目標に描いたもので、県土利用に関する行政の指針となるとともに、県土利用に関する各種計画の基本となるものです。

計画の内容としては、①全国に誇る優れた自然性を守り、②農業県としての地位を維持発展

させる、③人口の増加、経済社会諸活動の拡大に伴う土地需要にも適切に対処することを基本方針として利用目的別にその基本的考え方を決めていきます。昭和六十年における県土の利用目的別の規模の目標のあらましは、下表のとおりです。

主なものをみますと

ア、農用地
農業経営の安定のため、農地が無計画に転用されないよう必要面積を確保することとし、約五九〇〇ha(七%)の減少にとどめた。

イ、森林

自然環境保全の見地から森林を極力保全することとし、全国計画とほぼ同様二%の減少とした。

ウ、住宅地

六十年の人口を二二万人と想定し、これに必要な住宅地の面積を確保することとした。

エ、工場用地

経済の安定成長を見とおし、県民の働く場所の確保のため

に必要な工場用地を四二〇〇haとした。

県土の利用目的に応じた規模の目標

	昭和47年	昭和60年	構成比	
			昭和47年	昭和60年
農用地	80,474 ha	74,590 ha	18.9 %	17.5 %
森林(原野含む)	285,966	280,750	67.2	66.0
水面・河川・水路	17,273	18,710	4.1	4.4
道	12,111	15,830	2.8	3.7
住宅地	14,711	19,880	3.5	4.7
住宅等	12,381	15,680	2.9	3.7
工場	2,330	4,200	0.6	1.0
その他	14,681	15,630	3.5	3.7
合計	425,216	425,390	100.0	100.0



大伴家持

越の国々主

万葉の 歌人 大伴家持

日本の代表的古典〈万葉集〉四五〇〇首の歌のなかで、五〇〇首近くの歌を詠んでいる歌人であり、万葉集全五十巻の編集者とみられる〈大伴家持〉は、越の国の国主として赴任したのは天平十八年(七四六)二十九才のことです。

政務をとる国府は、いまの高岡市伏木町古国府の勝興寺附近にあり、ここで五年間国守生活を送っています。この間に詠んだ越の国の歌の数々が万葉集に残されています。

越の国へくる前の歌一六五首、滞在中二二〇首、

以後一〇〇首詠んでいるところから、家持が一番充実していた頃と推察されます。

家持の歌のいくつかを紹介しましょう。

「布瀬の海の沖つ白波あり

通ひいや毎年に見つつ偲ばむ」

「東風いたくらし奈呉の海人の

釣する小舟こぎ隠る見ゆ」

「立山の雪し消らしも延槻の

川の波瀬鎗浸かすも」

(延槻川は早月川)

ご利用下さい

みなさんの広報課です

みなさんと県のパイプ役〈広報課〉は、みなさんの意見、希望、相談を受けて県政に反映、また県の施策を一日も早くお知らせしています。主な仕事は次のとおりです。どうぞご利用下さい。

●テレビ「みんなの県政」放送

*北日本放送—毎週日曜日、午前9時から30分間、県の政策を対談・座談会・フィルムでわかりやすく解説(第3日曜日は知事と語る)(第4日曜日は人物往来)しています。

*富山テレビ—毎週月曜日—土曜日まで毎日放送

月曜日—金曜日までは午後5時45分から5分間でお知らせ(水曜日は奥さんこんにちを)、土曜日は午後5時30分から15分間、県政(第4週は知事と語る)を対談やフィルムで解説しています。

*NHKでは次の時間に放送ご協力を得ています。

テレビ 午前11時55分—12時・午後6時40分—7時

ラジオ 午前11時55分—12時・午後6時50分—7時

●月刊誌「みんなの県政」毎月5日頃発行

県政施策の解説、生活の知識などを載せ、みなさんのたくさん集まるところに配付しています。

●新聞「みんなの県政」—毎月第2土曜日と最終土曜日に、北日本・富山・読売・北陸中日の各新聞に県政の最近の動きや身近なお知らせを載せています。

●県民相談室—一次の県内4カ所にあります。生活上の相談、県政への意見、希望など気軽にどうぞ。

*県民相談室は広報課内にあります。

*高岡・魚津・砺波の各地方県民相談室は、高岡・魚津・砺波の各総合庁舎内にあります。